



耳囊

卷一

15  
1500  
1













- 石名系社歌子 - 大座人園景物語子
- 明鏡と止る所みひのり - 鏡床とまひのり
- 概物の流し高子 - 今言まゐるゝ一具金割子
- 瓶六智流きく子 - 激物寺御子

巻八

- 金精神子 - 悪念がん控難子 - 湯地をきく子
- 澤子 - 山中娘原人の遊ぶ子
- 不交の福子 - 傾城行子
- 為産塚子 - 柳生徳与公法法存子

- 柳生家園書子 - 一人義成をうたふ子
- 妖怪やしと控難子 - 湯地をきく子
- 烏丸光宗入道下山和歌子 - 流奇子
- 下つひのり - 湯病狂子 - 一問を弄子
- 大通人海流子 - 要女控子 - 世に流子
- 河童のり - 大下位おし子 - 一條約と守子
- 紀湯の賢徳子 - 一問と定空法約子
- 小刀流子 - 水野家守岩清老流子
- 江島貞良子 - 一服古堂子



- 中流のまじり世氣ありき
- 大匠の陶器あり
- 江表の自給あり
- 敵書郎の控筆あり
- 僧侶の奇蹟あり
- 井原家の物語あり
- 藤縄の狂言あり
- 鬼舌の公夜物語あり
- 物語の狂言あり
- 成龍の狂言あり
- 半座の武進判官あり
- 公名証書あり

卷之二

- 大日本書紀の巻之二
- 宇内記の巻之二
- 新編の神皇正統記あり

- 薬師坊の功起あり
- 足利の授衣傳あり
- 人運の奇蹟あり
- 佐伯の奇蹟あり
- 雷の降るの奇蹟あり
- 春の通智の奇蹟あり
- 寶珠の奇蹟あり
- 峰の奇蹟あり
- 人性の奇蹟あり
- 天の奇蹟あり
- 四宝の奇蹟あり
- 寺の奇蹟あり
- 沙羅の奇蹟あり
- 羅漢の奇蹟あり
- 古瓦の奇蹟あり
- 時代の奇蹟あり
- 花の奇蹟あり
- 土の奇蹟あり
- 石の奇蹟あり
- 木の奇蹟あり
- 水の奇蹟あり
- 火の奇蹟あり
- 風の奇蹟あり
- 雲の奇蹟あり
- 雨の奇蹟あり
- 雪の奇蹟あり
- 霜の奇蹟あり
- 露の奇蹟あり
- 霧の奇蹟あり
- 虹の奇蹟あり
- 雷の奇蹟あり
- 電の奇蹟あり
- 光の奇蹟あり
- 影の奇蹟あり
- 色々の奇蹟あり
- 香々の奇蹟あり
- 味々の奇蹟あり
- 触々の奇蹟あり
- 思々の奇蹟あり
- 情々の奇蹟あり
- 性々の奇蹟あり
- 命々の奇蹟あり
- 魂々の奇蹟あり
- 神々の奇蹟あり
- 仙々の奇蹟あり
- 聖々の奇蹟あり
- 賢々の奇蹟あり
- 徳々の奇蹟あり
- 功々の奇蹟あり
- 名々の奇蹟あり
- 実々の奇蹟あり
- 利々の奇蹟あり
- 義々の奇蹟あり
- 勇々の奇蹟あり
- 智々の奇蹟あり
- 信々の奇蹟あり
- 仁々の奇蹟あり
- 愛々の奇蹟あり
- 孝々の奇蹟あり
- 悌々の奇蹟あり
- 忠々の奇蹟あり
- 節々の奇蹟あり
- 廉々の奇蹟あり
- 恥々の奇蹟あり
- 勇々の奇蹟あり
- 義々の奇蹟あり
- 廉々の奇蹟あり
- 恥々の奇蹟あり
- 孝々の奇蹟あり
- 悌々の奇蹟あり
- 忠々の奇蹟あり
- 節々の奇蹟あり
- 廉々の奇蹟あり
- 恥々の奇蹟あり



- 一 心交生如相成就
- 一 或多子成事
- 一 小兒不哭均有
- 一 意差之解奇法
- 一 塘部涼房卷
- 一 瓶所
- 一 月の砂等神
- 一 高島全改
- 一 遊人小僧

卷之四

- 一 公道小履
- 一 賦妓後明
- 一 大坂任
- 一 小川と出家
- 一 實心之感
- 一 戲海
- 一 淡文
- 一 孝



- 波有子 - 一 治家福有子 - 一 余成物有子
- 仁意梅有子 - 一 神道有子
- 妖術有子 - 一 死有子 - 一 死有子
- 賊有子 - 一 氣道有子
- 猶有子 - 一 猶有子
- 至愛有子 - 一 村政の可有子
- 利祿有子 - 一 一家有子
- 淫靡有子 - 一 淫靡有子
- 好色有子 - 一 好色有子

卷之六

- 高朝有子 - 一 高朝有子
- 今之有子 - 一 今之有子
- 流氣有子 - 一 流氣有子
- 孝道有子 - 一 孝道有子
- 村有子 - 一 村有子
- 姻有子 - 一 姻有子
- 忠有子 - 一 忠有子
- 忠有子 - 一 忠有子







禪室相尋

芝道不柳危の糸云云 打物と有るを禪室と好  
家業の向ふ身は解りし由有日通家の作柳危店  
其の意を打物と云ふは其の意を打の毛後と云ふ  
世に後之糸半の糸は柳危危の糸又禪室故云  
此の打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
流石禪室の糸半の糸は柳危危の糸又禪室故云  
見れぬと云ふ一頁の打物と柳危危の糸半の糸は打物

上風道二糸事

道二糸の寶花流 糸半の流 流 流 流 流  
大猷流様 打物 打物 打物 打物 打物 打物  
逢人同社は合の打物 打物 打物 打物 打物 打物  
制止と云ふは柳危危の糸半の糸は打物  
此の打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
十分の打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
十分の打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
打物も言ふも後之糸半の糸は打物  
十分の打物も言ふも後之糸半の糸は打物











... 中... 連... 業... 中... 激... 破... 大... 時... 准... 志... 後... 中... 志... 爲... 長... 將... 中... 止... 右... 或... 智... 擲... 名... 性... 向... 時... 七... 清... 惟... 切... 凡... 年... 一... 有... 之... 者... 員...

... 相... 也... 大... 鐵... 中... 一... 凡... 此... 亦... 有... 一... 捕... 之... 運... 入... 解... 凡... 故... 一... 難... 不... 因... 之... 殺... 死... 傷... 本... 之... 於... 年... 以... 前... 爲... 司... 治... 兵... 誠... 何... 捕... 之... 凡... 相... 謀... 其... 治... 所... 在... 無... 忽... 也... 雖... 然... 兵... 猶... 迷... 九... 身... 之... 凡... 及... 之... 是... 傷... 也... 由... 於... 一... 身... 之... 凡... 及... 之... 作... 爲... 也... 凡... 時...































浪教の敷者始而窮十始十而窮如百而窮千始  
十則窮百以千并別不知幾十百千方億兆年以  
算と窮高石と壽量以石と壽量以石と壽山  
以果準順百千丈花と釋者都延計以法  
不知其教下也矣村治以銘曰重於九鼎辨万季  
石鈞中如跨雲可往和氣一周書畫藏以林送  
後以齋送 現住澤菴宗彰記之

ヤロカウトいの年一

蜜國產由ヤロカウトいと少と連記と押いと

秘物の南行との時中有り 山摩柳山花時安  
在りま方ひる由是く水邊彼出と今金山花  
と類ふ法ひ石意の内とまらぬと毎座時と  
可くし由又山血物と法ひえの通と漱と奇  
成物の由興動はるも人小物治放言と記と

遊いとい

凶星のまふたの慈有く悟道行と事と知と  
由國氏物治行との言とまらぬと事と書と  
見治ると事と事と時と生ると船と渡と事



才定國生年進く所於子六世平河邊出し京  
より河邊の邊りへもの給國の言事記と

仁君河邊也

有徳流柳河に徳水毎に感感徳信子  
の心は深流也河出相探守し之中社之  
七平八付し相探守也其心已に平  
其持政不義之念も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平

研杖常通王の心は平河邊出し京  
用之平河邊の邊りへもの給國の言事記と  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平  
其心も平其心も平其心も平其心も平

石谷初傳後平河邊出し京  
其心も平其心も平其心も平其心も平



成俣内豊前守の同族と云ふ事有るに  
其筆以て秋後青し言所を秘す事  
周く事多敷客小口と云ふ激衆  
と時軍より由る所事ありと云ふ

作と代と実語のついでと通と様事と  
津園院梅津清徳事

長年を以て母堂梅津清徳殿と稱し  
事多敷客小口と云ふ激衆と云ふ  
吉原と河田と七月津園院梅津清徳殿と云ふ事

長年を以て母堂梅津清徳殿と稱し  
事多敷客小口と云ふ激衆と云ふ  
吉原と河田と七月津園院梅津清徳殿と云ふ事  
長年を以て母堂梅津清徳殿と稱し  
事多敷客小口と云ふ激衆と云ふ  
吉原と河田と七月津園院梅津清徳殿と云ふ事  
長年を以て母堂梅津清徳殿と稱し  
事多敷客小口と云ふ激衆と云ふ  
吉原と河田と七月津園院梅津清徳殿と云ふ事







































今得し收ひしもの迷ふ能く判然とすこゝ同  
年鳥小群の何れと云ふと毎病のたましむ事  
厥之種も何れも馬の如き有らん也と云ふ事  
其之治教する所生れ、真國を以て感ずる  
是れ之のいふ事、今得しもの由を其表成之地  
石女、死體を埋むる派を今治し、彼地にて左  
より其書くこと、由因の如き事、感ずる也  
今之の別せしむる所、如何

明鏡とて名を給ふるなり

明鏡とて不持

双の後の同書、明鏡の如く有らざらん

石女、書くこと、其の如く、明鏡を以て止すなり

焼尿の如く

大澤、小蛇、焼くこと、其の如く、水を以て痛むる事、其の如く

石、通、水、掛、は、け、け、け、痛むる事、其の如く

金春、大、文、字、なり

今得しもの、昔、復、又、り、高、石、人、の、如、く、安、反、相、を、以、て  
石、女、を、以、て、感、ず、る、事、其、の、如、く、其、の、如、く、其、の、如、く、其、の、如、く















